

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：35503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03305

研究課題名（和文）観光におけるミドルマンの関係構築と他者イメージ形成に関する研究 対馬を中心に

研究課題名（英文）Anthropological Study of Middlemen Relationship Building and Forming Images of Others through Tourism: Focused on Tsushima

研究代表者

中村 八重（NAKAMURA, Yae）

東亜大学・人間科学部・客員研究員

研究者番号：00769440

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日韓の二国間関係に絶えず左右される構造の中にある対馬観光において、対馬の観光業に関わる韓国人と、日本人で韓国人業者と連携する観光関係者、島外から移住して観光関連産業に携わる日本人移住者をミドルマンとして扱い、彼らを対象に相互のイメージをいかに形成しているか分析した。日韓のミドルマンたちは、対馬における観光ビジネスに対する認識を変え、日本と韓国の人々をつなぎ融和をもたらす役割を果たす一方で、日韓の国民国家に規定された相互のイメージの枠から抜け出せないことも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、ナショナリズムが先鋭化する国境地帯に位置する対馬の観光をミドルマンの視点から研究したことであった。従来の観光研究におけるホスト・ゲストの二分的関係分析があったため、見逃されがちであったミドルマンに注目し、異文化接触における単なる仲介者としてではなく、協働する他者たちとして位置づけ、彼らの活動を徹視的な視点から分析した。大量の外国人観光客が押し寄せる東アジアの他地域でも起こりえる葛藤や摩擦、協働の事例として観光振興のもたらす問題を検討するための知見を提示した。

研究成果の概要（英文）：This study defines Koreans involved in Tsushima Island tourism, Japanese people related to tourism and Japanese who moved to the island and are engaged in the tourism-related industry as middlemen, and intends to analyze how they are creating the mutual images through the structure that constantly depends on bilateral relationship between South Korea and Japan. Korean-Japan middlemen are playing a role in changing awareness of tourism industry of Tsushima Island and connecting both countries. On the other hand, it cannot be denied that their mutual image failed to break the frame as citizens of Korea and Japan.

研究分野：文化人類学

キーワード：韓国 対馬 観光 ミドルマン 文化人類学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

対馬は近年、急激な韓国人観光客の増加により、社会・経済的に劇的な変化を余儀なくされている。対馬は韓国に隣接するという地理的な条件を備え、韓国人による観光は地域活性化の一環として生命線といっても過言ではない産業に発達した。こうした中で、対馬と韓国を行き来し、または対馬に定住して働く韓国人と、彼らと手を組んで観光業に携わる地元民が増加し始めた。彼ら「ミドルマン」は、対馬の人々のもつ韓国イメージへ大きな影響を与える。また韓国人観光客にとっても対馬で最初に接するエージェントとして対馬イメージを形成するにあたり重要な役割を果たしている。対馬で活動する韓国の業者たちは他国で経済的利益を得ていることで、対馬の人々から悪いイメージを持たれる一方で、対馬の観光開発およびまちづくりへ積極的・肯定的な影響を及ぼしており、その数と役割への期待拡大が予想されていた。さらに、日韓の間でナショナリズムが先鋭化していると言われる現在、彼らがどのような意識で韓国や対馬と関係性を構築し、いかなる役割を果たしえるのか検討する必要があると考えた。このような状況を踏まえ、変容する対馬の観光において、対馬の人々の韓国イメージ形成過程、韓国人観光客の対馬イメージの形成におけるミドルマンの役割研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究は、ホストとゲストの二元的枠組みで分析されてきた従来からの観光研究に、ホストゲストの間にミドルマンとして活動する個人や団体を、位相として位置付けることを狙った。韓国人観光客の増加に伴い、韓国人が対馬での観光業に関わる機会が増加し、対馬の人々は経済的にも日常生活的にも韓国人に接するようになったうえに、対馬と韓国を跨いで活躍する韓国人や日本人の存在感が増している。そこで対馬を拠点に活動する韓国人や、彼らと協働する地元の人々をミドルマンとして設定し、これまでの観光研究であまり焦点があてられてこなかったミドルマンの役割を調査研究することを目的とした。

3. 研究の方法

対馬とその送り出し側である釜山を主な調査地として、また比較研究対象として下関などで、韓国人の観光とそれを取り巻く人々を対象にして、参与観察による現地調査および文献調査を行った。現地調査は日韓交流事業の参与観察および観光客、ミドルマン、対馬の人々を対象にした聞き取り調査を中心に行った。具体的には、旅行社、ガイド、宿泊、レストランなどの観光関連業に関わる韓国人やそれらを兼業して対馬内で働く韓国人、民間や行政で日韓交流に関わる人々、日本の他地域からの移住者で観光業に携わる人々などと、彼らに対して直接・間接に協力をする人々など、多層的な人々を対象にして微視的なデータの収集に努めた。

4. 研究成果

(1) ミドルマンの多様性とホスト・ゲスト間での関係構築

韓国人による対馬観光が本格化した当初は、「かつて韓国であった対馬島(テマド)」に対するノスタルジアをもって歴史探訪をしようという巡礼志向の強い観光客が目立っていた。調査当時には、とりわけ若年層の旅行者が増加し、団体から個人旅行へ転換、そして日帰り旅行へと変化しており、観光ニーズはレジャーやスーパーでの買い物、街歩きといったいわゆる生活観光へシフトしつつあった。こうした観光の大衆化と多様化によって、日韓を頻繁に行き来しながら、あるいは定住をして対馬内で宿泊業、食堂経営をする人々、あるいは日本人経営の事業所の韓国人従業員など様々な形で観光業に関わる人々が増加していた。韓国から対馬へ事業を展開する場合、地元の人々の協力なしには事業を展開していけず、進出しても条件や人間関係がうまくいかない場合には撤退することが繰り返されており、地元で新たに事業を展開しようとする地元の人々もまた、韓国側の関係者との関係性がうまく行かなければならず、様々な葛藤の上で両者が協力的な関係を模索しようとする動きがみられた。徐々に、定住して事業を行う韓国人の中から、地元の人々と信頼関係を構築した例が出るようになり、彼らを頼る韓国人のネットワークが国境を越えて形成され、ライバル関係を越えた韓国人の相互連携が見られた。これに関連して注目されるのが民団の再組織である。下関においては、民団は朝鮮通信使行列を中心とした日韓交流事業に継続的に関与しつづけるなど日韓交流にある程度の影響力を持っていた。これに対して、対馬では人口流出に伴い早い時期に民団は文化交流や観光交流における機能を失っていたところへ、韓国人観光客と韓国人住民の増加を受けて2018年に再組織化された。ニューカマーの韓国人が組織としていかなる役割を持ち得るかは今後検討が必要である。また、対馬の観光には日本人移住者が新たなミドルマンとして地位を確保しつつあった。中でも韓国在住経験を持つ人々は、韓国人観光客とはもちろん地元の人々と韓国人ミドルマンと良好な関係を築いていた。韓国人ミドルマンの協働が主に事業上のものであるのに対して、日本人移住者の持つ外部からのまなざしや対馬に対する相対的評価を買われて、観光振興に公的な役割を期待されている事例があることが韓国人ミドルマンと異なる点である。

(2) ミドルマンが与える韓国・日本イメージ形成への影響

韓国からの定期船の入港数が異なる南北二つの地域における環境的差異に起因した問題意識と他者認識の差異が顕著である。特に観光客数の流入が急増した地域における聞き取り調査では、日本韓国の相互イメージのふり幅が大きい傾向がみとれた。島外からの観光業への参入者

数にも違いがあり、地元の業者との関係が良好であるといったような、好意的に地元を受け入れられている韓国人の存在の多さが相互に他者イメージ形成に影響を与えていると考えられる。だが韓国人との協働にトラブルを抱える地元事業者も存在し、こうした人はビジネスパートナーとしての韓国人を尊重しつつも葛藤している。協働は葛藤も起こす反面、地縁社会である対馬への理解を深める事例もあり、必ずしも悪いイメージだけを形成するのではなかった。一方で韓国人ミドルマンは、自身が対馬における韓国イメージに与える影響に自覚的で、一部のマナーの悪い観光客が韓国に対する悪いイメージを形成することや、時に韓国人同士の協働が返って韓国人イメージに悪影響を与えうることに関心する様子が観察された。こうした個々の事例を蓄積しミドルマンの役割と影響を総合的に提示することができた。

2019年には、日韓関係の悪化から観光が打撃を受けており、特定の国家を対象にした二国間観光の弱点があらわになった。個々人では良好な関係を築いていたものの、相互に国家に対する憤りが観察され、個と国家のイメージの乖離が明らかになった。韓国からの観光客を一方的に受け入れる現状である観光の特性から、常に日本対韓国あるいは、日本人対韓国人の関係枠組みに陥り齟齬を生みやすいことが指摘できる。共に生きていかなければならない他者でありながら、相互のイメージが二国間イメージに回収され二元的にのみ表れてしまうという、対馬観光のもう一つの特徴が指摘できる。自治体では韓国に依存した観光形態からの脱却が模索されており、観光活動の変化が注目される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中村八重	4. 巻 21
2. 論文標題 国際交流事業における在日コリアンの参与 対馬と下関の朝鮮通信使再現行列を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 白山人類学	6. 最初と最後の頁 59-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村八重	4. 巻 74
2. 論文標題 対馬の観光における他者イメージの形成 - ミドルマンを中心として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文化研究	6. 最初と最後の頁 27 - 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中村八重
2. 発表標題 朝鮮通信使行列再現による地域を超えた集会的記憶の創造 対馬と下関を中心として
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村八重
2. 発表標題 下関の朝鮮通信使再現と在日コリアンの参与
3. 学会等名 韓国日語日文学会（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 植野弘子・上水流久彦編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 272
3. 書名 帝国日本における越境・断絶・残像 人の移動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----